川崎競輪 開催情報紙

川崎スポーツ

川スポ 平成29年 6月号
【発行】川崎競輪 【監修】川崎サイクル
川崎競輪場
http://www.kawasakikeirin.com/

6月1日(木) 2日(金) 3日(土)

オッズパーク杯・神奈川新聞社杯争奪戦

FI

世界のスピードで魅了する

「オッズパーク杯・神奈川新聞社杯」は6月1日から3日までの3日間開催される。S級戦の注目選手は、短期登録選手制度で3度目の来日になるマティエス・ブフリ(オランダ)、初来日サム・ウェブスター(ニュージーランド)の両外国人選手。前記マティエス・ブフリの活躍は競輪ファンの記憶に新しいが、オリンピックや国際大会やで輝かしい記録を樹立しているサム・ウェブスターにも大いに期待が持てる。真向勝負を挑むのは本格化した金子哲大(埼玉・95期)。近況持ち味の先行力がアップしており、外国人選手を苦しめる場面も。もつれれば戦法多彩な吉本卓仁(福岡・89期)の捲りが浮上する。

A級戦では得点上位の佐藤雅春(宮城・94期)が主軸になりそう。展開に応じて柔軟に立ち回れる強味を生かす。地元勢に目をやれば、志佐明(神奈川・107期)が力を付けている。伊藤彰規(神奈川・96期)とタッグを組めば強力なラインを形成する。

S級注目選手
マティエス ブフリ
オランダ

前年は9月玉野(GⅢ)で開催された被災地支援・国際競技支援競輪を初戦に、10場所出場し、予選で確定板を外したのは10月名古屋(FI)の一度だけという抜群の安定感。12月取手(FI)初日は、山岸佳太(茨城・107期)の先行をホームから二気に巻き返して白星スタート。準決勝は矢野昌彦(栃木・91期)の先行策。中団から先に仕掛けた中井俊亮(奈良・103期)の上を一気に捲り切り2連勝。無傷で迎えた決勝戦は小松崎大地(福島・99期)の先行を番手の成田和也(福島・88期)にブロックされ後退も、テオ・ボス(オランダ)とシェーン・パーキンス(オーストラリア)のワンツーに貢献している。

2016年は勝率、連対率共に8割台をキープと安定した強さを誇っている。持ち味は何といっても抜群のダッシュ力。過去のレースを振り返ると単騎の競走になるケースもあるが、数的なハンディは桁違いのトップスピードでカバーする。

サム ウェブスター
ニュージーランド

13年メキシコワールドカップ・チームスプリント優勝、16年リオ五輪・チームスプリント銀メダル、ロンドン世界選手権・チームスプリント優勝、今年アメリカで開催されたワールドカップ・チームスプリント優勝等の輝かしい実績を引き下げての初来日。自転車競技の実績では、今期来日した他5名の外国人選手と互角、もしくはそれ以上と良いっても過言ではないだろう。

5月18・19日の2日間、競輪学校で5回の模擬競走が実施された。結果は1着0回・2着1回・3着2回・着外・2回と未勝利に終わったが、慣れていない屋外バンクという点を考慮すれば仕方のない所か。ただ、競輪のコツを掴んでしまえば、1着量産する事は間違いないだろう。

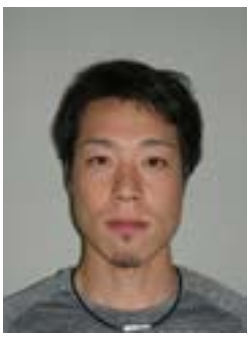
金子 哲大
埼玉・95期

「宇都宮記念の前に交通事故に遭い、右肩を痛めて少し張りがある感じがしますが、レースになれば問題ないですね。最近は捲りの決まり手が増えている。状態は上向きだと思います。悪い時は後手を踏んでリカバリー出来ず、そのまま大敗するケースが多かった。初日のレースに関しては、車を引き切ったらすぐに仕掛けるつもりでいたし、5百バンクで鐘過ぎ辺りから距離なら脚的にも問題無い。二次予選は自分の判断ミス。それでも踏んでいれば神山さんがどこかで拾ってくれると思っていたし、入れてくれた以上は脚が溜まっていなくても仕掛け様という気持ちでした」と前回の宇都宮記念(GⅢ)を振り返る。

最近は持ち味の先行力にも磨きがかかり、別線にとっては脅威の存在だ。外国人勢が捲りに拘っていると、ベースを掴んで押し切ってしまう可能性も。

A級注目選手
佐藤 雅春
宮城・94期

前回の当バンクは3月28日に出走し初日特選からエンジン全開。打鐘過ぎペースを落としていた鈴木謙二(東京・97期)をホームで一気に叩く。終始番手を無風で回っていた成田直喜(青森・81期)を振り切って堂々の逃げ切り勝ち。準決勝でも果敢に攻める。マーク野村純宏(神奈川・82期)が付け切れず、力を付けている大関祐也(千葉・107期)が番手にハマる展開を力で強引にねじ伏せ2連勝。無傷で勝ち上がった決勝戦は3度目の先行。鐘過ぎから思い切って仕掛け主導権を取り切るも、脚を溜めていた齋藤和伸(埼玉・91期)の強襲に遭い3着という結果に終わったが、連日のレース内容は文句のつけようがない。その後もコンスタントに決勝戦に勝ち進んでおり、安定感は抜群。今開催も勿論好調キープ。



志佐 明
神奈川・107期

ハイレベルな107期の中でも在校5位という逸材。大怪我からの復帰直後は足踏み状態が続いていたが、最近は本領を発揮し潜在能力の高さを見せる。

5月松戸(FI)は予選からのスタート。赤板から踏み合った高橋明久(宮城・98期)と大山誉史(東京・99期)を打鐘から巻き返す。G前は鋭脚會田正一(千葉・68期)に交わされるも上々の滑り出し。準決勝は金野俊秋(岩手・92期)との先行争いを制す。ペースに持ち込み強地脚を発揮。決勝戦は赤塚悠人(山形・97期)先頭に3車で結束した北日本2段駆けの前に屈するも、捲り上げて6着はまずまずのレース内容。

当バンクは昨年10月・12月と2度出走。いずれも準決勝4着という結果で決勝進出ならずだが、今の勢いを維持していればきっちりクリアするはず。

URBAN BANK
かわさきケイリン

オッズパーク杯・神奈川新聞社杯 決勝想定メンバー

予想	東 龍之介	▲ 金子哲大	西川親幸	村上直久	三宅伸	◎ ブフリ	× 吉本卓仁	○ ウェブスター	注 高橋大作
氏名(直近4ヶ月成績)	神奈川 96期	埼玉 95期	熊本 57期	神奈川 95期	岡山 64期	オランダ …	福岡 89期	ニュージー …	東京 83期
府県別	S1	S2	S1	S1	S1	S2扱	S1	S2扱	S2
1着	5	5	0	1	3	0	7	0	5
2着	2	6	5	1	3	0	0	0	6
3着	11	2	7	0	6	0	2	0	5
着外	15	9	17	4	15	0	12	0	9
棄権	0	0	0	0	0	0	0	0	0
失格	0	1	0	0	0	0	0	0	0
出走数	33	23	29	6	28	0	21	0	25
勝率	15.1	21.7	0.0	16.6	10.7	0.0	33.3	0.0	20.0
連対率	21.2	47.8	17.2	33.3	21.4	0.0	33.3	0.0	44.0
3連対率	54.5	56.5	41.3	33.3	42.8	0.0	42.8	0.0	64.0
H数	0	14	0	1	0	0	4	0	0
B数	0	14	0	1	0	0	4	0	0
競走得点	106.09	107.04	106.41	105.66	109.11	0.00	105.00	0.00	107.60